

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第28週 (7/6-7/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	28週	27週	26週	25週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	7/6-7/12	6/29-7/5	6/22-6/28	6/15-6/21	6/29-7/5
			28週	27週	26週	25週	27週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		0	0	1	0	1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	10	15	9	133
	感染性胃腸炎		36	30	26	33	231
	水痘		4	2	3	2	13
	手足口病		0	6	0	1	12
	伝染性紅斑		0	1	0	2	1
	突発性発しん		20	15	24	19	82
	ヘルパンギーナ		1	0	0	1	1
	流行性耳下腺炎		0	1	2	3	14
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	0	1	2	7
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(34件)

※新型コロナウイルス感染症26件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認
結核	女性	40歳代	IGRA検査				
腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
	男性	50歳代		梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
後天性免疫不全症候群	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出

・第28週は、結核2件(75)、腸管出血性大腸菌感染症2件(7)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(9)、急性脳炎1件(5)、後天性免疫不全症候群1件(1)、梅毒1件(12)、新型コロナウイルス感染症26件(149)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第28週のコメント

過去10年の同時期と比べると、ほぼ平均未満となっている。

<トピック>

<新型コロナウイルス感染症>

・発生届

第28週は発生届出件数が急増し、緊急事態宣言解除(5月25日:第22週)前の第17週から10週ぶりに20件を上回り、これまでで3番目に多い26件の届出となりました。合計は149件となっています(図1-1)。

緊急事態宣言解除の前後で年齢構成を比較すると、解除前(届出件数109)では30歳代以下が32.1%と3割程度であったことに対し、解除後(届出件数40)では57.5%と半分以上を占めています。特に20歳代は、解除前では14.7%と2割未満であったことに対し、解除後では32.5%と2倍以上に増加しています。また、解除前は男性61件(56.0%)、女性48件(44.0%)で男性が多かったことに対し、解除後は男性17件(42.5%)、女性23件(57.5%)となり、男女の比率が逆転しました。年齢中央値は、解除前では全体が47.0歳、男性が51.0歳、女性が42.5歳でしたが、解除後は全体が35.0歳、男性が37.0歳、女性が34.0歳と若い年代に下がってきています。(図1-2、表1-1-1及び表1-1-2)。

なお、全期間では男性78件(52.3%)、女性71件(47.7%)で、男性が僅かに多くなっています(図1-3及び表1-2)。

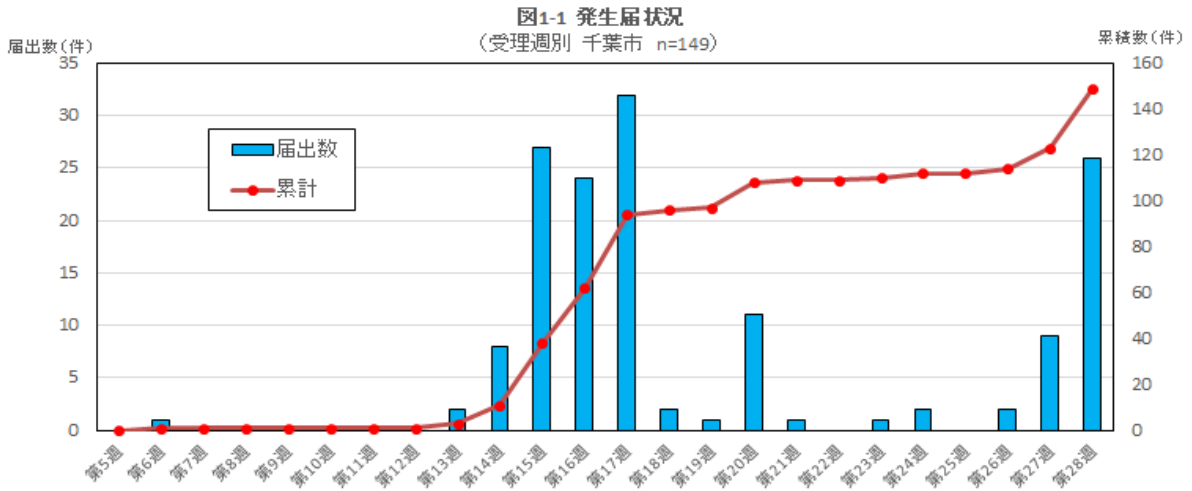
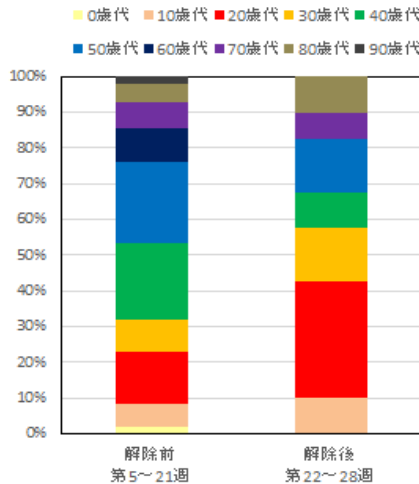


図1-2 年齢構成の推移



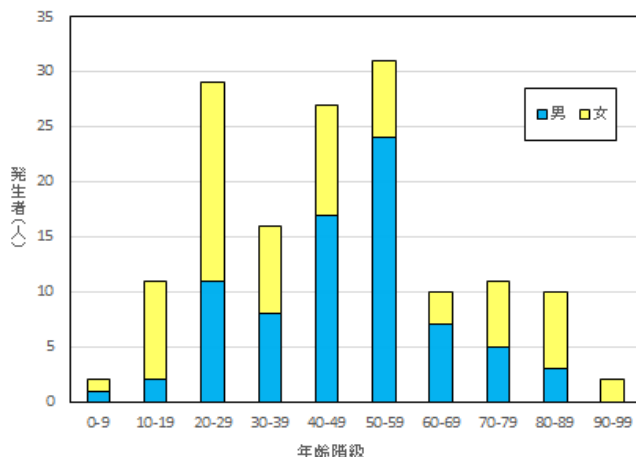
中央値	51.0	42.5	47.0	
年齢層	男	女	計	
0-9	1	1	2	1.8%
10-19	1	6	7	6.4%
20-29	5	11	16	14.7%
30-39	5	5	10	9.2%
40-49	14	9	23	21.1%
50-59	21	4	25	22.9%
60-69	7	3	10	9.2%
70-79	5	3	8	7.3%
80-89	2	4	6	5.5%
90-99	0	2	2	1.8%
100-	0	0	0	0.0%
計	61	48	109	100.0%
	56.0%	44.0%	100.0%	

表1-1-1 性別及び年齢階級別
(緊急事態宣言解除前:第5週~第21週)

中央値	37.0	34.0	35.0	
年齢層	男	女	計	
0-9	0	0	0	0.0%
10-19	1	3	4	10.0%
20-29	6	7	13	32.5%
30-39	3	3	6	15.0%
40-49	3	1	4	10.0%
50-59	3	3	6	15.0%
60-69	0	0	0	0.0%
70-79	0	3	3	7.5%
80-89	1	3	4	10.0%
90-99	0	0	0	0.0%
100-	0	0	0	0.0%
計	17	23	40	100.0%
	42.5%	57.5%	100.0%	

表1-1-2 性別及び年齢階級別
(緊急事態宣言解除後:第22週~第28週)

図1-3 発生届状況
(性別及び年齢階級別 千葉市 n=149)



中央値	48.5	39.0	46.0	
年齢層	男	女	計	
0-9	1	1	2	1.3%
10-19	2	9	11	7.4%
20-29	11	18	29	19.5%
30-39	8	8	16	10.7%
40-49	17	10	27	18.1%
50-59	24	7	31	20.8%
60-69	7	3	10	6.7%
70-79	5	6	11	7.4%
80-89	3	7	10	6.7%
90-99	0	2	2	1.3%
100-	0	0	0	0.0%
計	78	71	149	100.0%
	52.3%	47.7%	100.0%	

表1-2 性別及び年齢階級別
(全期間:第5週~第28週)

・ウイルス検査

千葉市環境保健研究所では、2020年第28週(2020年7月12日時点)までに4923例(検体数5116)について新型コロナウイルス感染症の検査を実施しました。搬入された市中感染・輸入例疑い事例は4665例(うち陰性化確認等248例)となっており、この他クルーズ船関連事例191例(うち陰性化確認126例)、その他陰性化確認等67例の検査を実施しました。

陰性化確認等248例を除いた市中感染・輸入例疑い事例4417例(検体数4559)については、陽性は146例(陽性率:3.3%)でした(図2-1)。陽性率について、年齢階級別では50歳代(5.1%)、10歳代(5.0%)、40歳代及び20歳代(共に4.0%)の順で多くなっています(図2-2及び表2)。

図2-1 新型コロナウイルス感染症市中疑い事例PCR検査状況

(週別 千葉市:7月12日現在 n=4417)
(クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く)

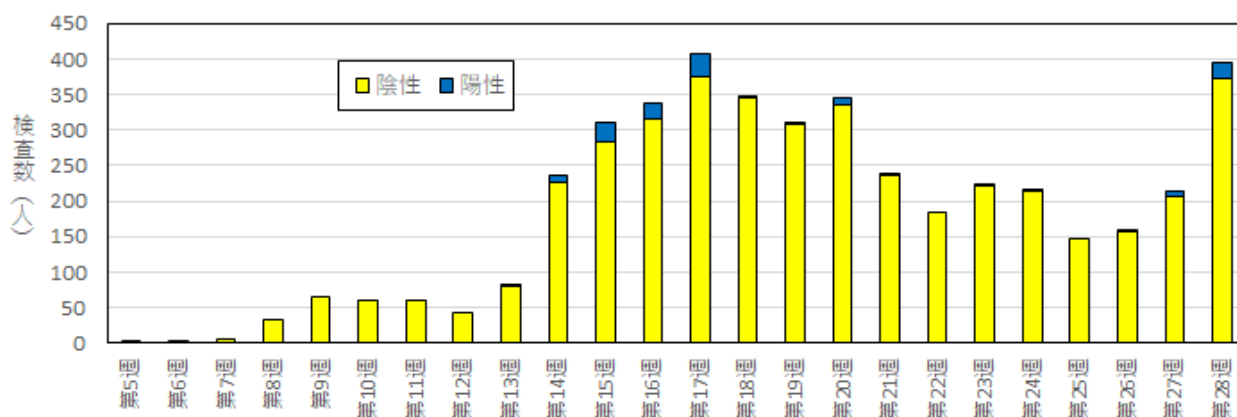
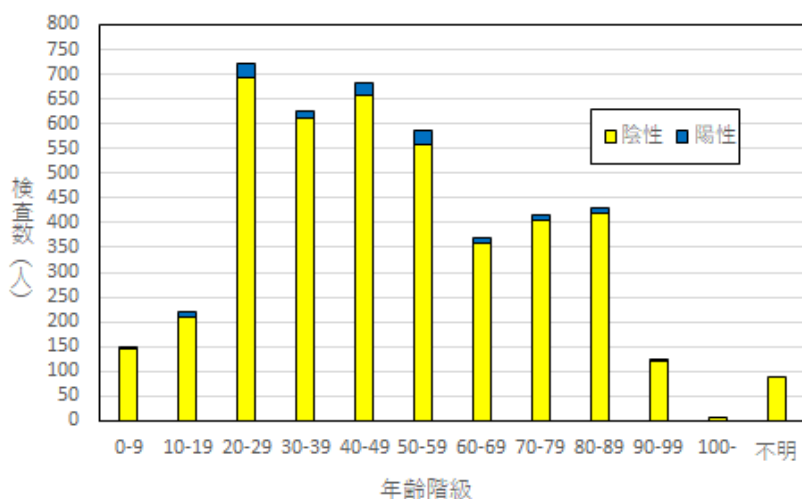


図2-2 新型コロナウイルス感染症市中感染疑い事例PCR検査状況

(年齢階級別 千葉市:7月12日現在 n=4417)
(クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く)



年齢階級	陽性	陰性	計	陽性率
0-9	2	145	147	1.4%
10-19	11	209	220	5.0%
20-29	29	694	723	4.0%
30-39	15	611	626	2.4%
40-49	27	656	683	4.0%
50-59	30	558	588	5.1%
60-69	10	360	370	2.7%
70-79	11	405	416	2.6%
80-89	9	420	429	2.1%
90-99	2	120	122	1.6%
100-	0	6	6	0.0%
不明	0	87	87	0.0%
計	146	4271	4417	3.3%

表2 年齢階級別の検査状況